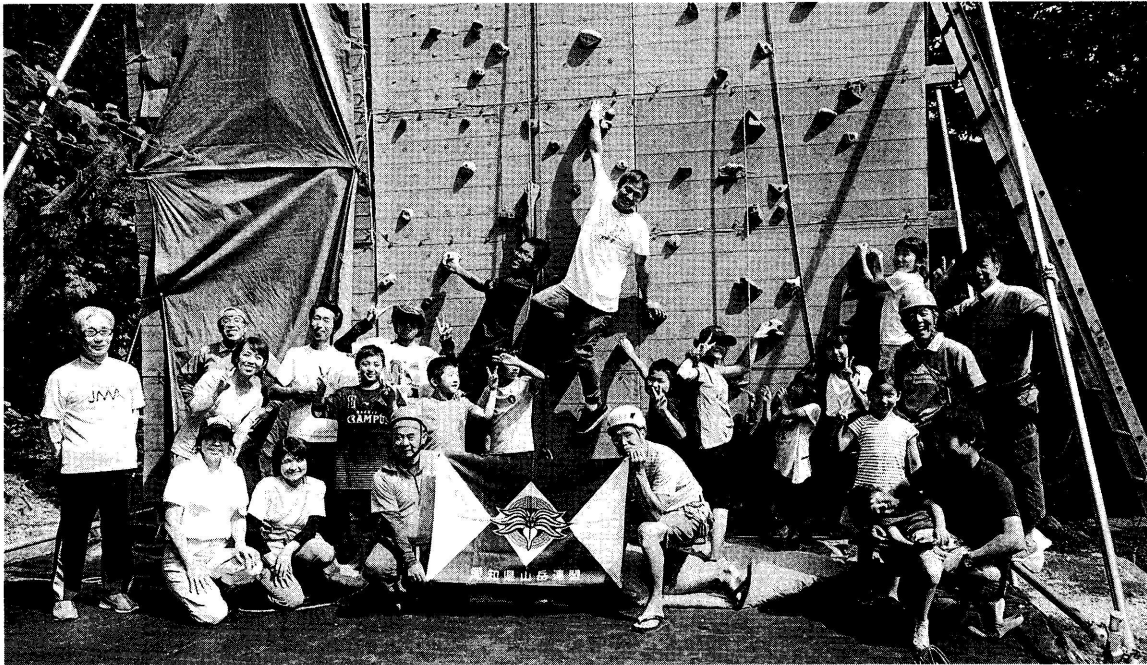


発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 安藤 武典
 編集人 中平等 新一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◆12月18日(火) 冬山遭難対策会議(県スポーツ会館) <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>



少年少女登山教室(親子ふれあい山遊び)

沢登りやクライミング体験!

少年少女登山教室(親子ふれあい山遊び)は、8月19日(日) 鈴鹿山系・朝明溪谷に於て実施し、子供12人、保護者8人、役員9人の計29人が参加した。

今年度は参加者が遅くまで確定せず、当日近くになって慌ただしく準備をした。そのため参加者との連絡も十分できず、受付時間に会場に來れない方もおり、少し遅れての開会式となった。

まず、子ども2班、父兄1班の3班に分かれて入川ポイントへ移動した。参加者を安全にいかにも楽しませようと花崗岩の岩の間の澄んだ水の中をコースを選びながら進行する。大きな岩の間から流れ落ちる水圧に挑みながら、指導員の適切な判断と補助でシャワークライミングを楽しんだ。

今年はずっと暑い夏であったが、昨日くらいから急に気温が下がり水も冷たく、全身が濡れるとかなり寒さを感じた。また、今年は水量も少ないこともあり、子どもたちの泳いだり、浮かんで流れ身を任せたりする姿も見かけなかった。開始が遅れたこと、体を温めるため休憩を多くとったことにより計画の最終地

点である朝明橋まで遡行せず、11時30分頃に朝明ロッジで切り上げた。

ベースの山小屋に帰り、昼食後、スポーツクライミング体験をする。高さ4mほどの人口壁をトップロープでクライミングを体験する。最初戸惑っていた子どもたちも回を重ねる毎にうまくなっていく。最高到達点で嬉しそうに笑顔でピース。ヤッタと得意げな顔。お父さんお母さんたちも日頃経験することのないクライミングを楽しみ、みんなの声援と笑顔で楽しいひと時を過ごした。参加者からはとても楽しく、日頃できない体験ができたなどと語ってくれた。

この行事に協力していただいたスタッフ、山小屋を貸していたいただいた山下さん、ライフジャケットの準備をしていただいた三重岳連、その他多くの方たちの協力のおかげで今年も安全に親子ふれあい山遊びを実施することができました。

(安藤 武典)

2018インターハイ三重

全国高等学校登山大会

高体連登山部 河野義人

平成30年度のインターハイは東海3県を中心に行われ、その中の第62回全国高等学校登山大会は、全国46都道府県(沖縄県は不参加)から47校(開催県の三重県は2校)の男女チームが参加し、菰野町内の鈴鹿山系で8月3日〜7日にかけて開催されました。インターハイの登山大会は、体力・技術・読図・知識・装備などを評価する採点競技として行われます。

ご存知のとおり今年の夏は異常な高温が続き、それが大会にも大きな影響を与えました。7月の14日〜16日に最後のリハーサルが行われた時も、気温が高くほとんど無風という状態で「こんな苦しい登山はなかなかないぞ!」という苦行でした。本番でこのような気温だったら、多数の選手が脱落することは明らかでした。

登山大会開会式の8月3日は名古屋で40・3度を記録した日です。翌日から高温が予想されました。三重県の大分本部からはWBG T(熱中

症予防指数 31になった場合、競技を中止するよう指示が出たそうです。そのため、競技中止にならないよう登山大会の3日間の行動は予定のコースから大幅に変更されることとなりました。

8月4日のコースのみ紹介すると、計画では八風キャンプ場〜三池岳〜八風峠〜釈迦ヶ岳〜羽鳥峰〜朝明溪谷でしたが、実施したのは前半という半分以下に短縮した八風峠から下山するというものでした。また、設営場所は三重県民の森の広場の特設設営所でしたが、夜になってもなかなか気温が下がらないという状況だったため、体調不良から行動できなくなるチームも出ました。3日間にそれぞれ釈迦ヶ岳、御在所、鎌ヶ岳の3ピークを踏むという予定でしたが、結果としては3日目は何とか御在所のピークだけは踏めたというものにせざるをえませんでした。

三重県高体連登山専門部の方々が、長時間かけて入念に準備したにもかかわらず、3

日時 平成30年11月30日(金) 19時20分
場所 愛知県スポーツ会館大会議室

第22回「遭難を考える」講演会

御獄山噴火〜生還者の証言

噴火災害から登山者は何を学ぶのか

- ◆講師 小川さゆり氏(山岳ガイド)
- ◆参加費 無料
- ◆主催 愛知県山岳連盟遭難対策委員会

日間とも計画通りのコースを実施できなかったということもあり、おそらく大会史上初めてのことだと思います。インターハイの登山大会は、役員は近県からも多く参加します。高校教員だけでなく医療関係などで愛知県からも何人かに参加していただきました。

最後に優勝校の紹介をします。男子は広島県修道高等学校、女子は山口県防府高等学校でした。愛知県勢は、男子・旭丘高等学校28位、女子・西尾高等学校22位という成績でした。来年の開催県は宮崎県です。全国の高校生たちが思いきり力を発揮できることを期待しています。

東海ブロック正副会長 理事長会議

会長 安藤 武典

7月14日から15日に東海ブロック正副会長、理事長会議が岐阜県関市のホテルでありました。これは静岡、岐阜、三重、愛知の各岳連の代表者が、現状報告と親睦を目的に毎年集まる会議です。今年も岐阜県が担当で、東海ブロッ

ク大会の日程に合わせて実施された。愛知県からは高橋、伊藤副会長、北村理事長、そして安藤の4名と近年では珍しく大勢の参加となった。まずは各県の現状報告をもとに、お互いの相互理解と協力について話し合った。特に国体の予選会を岐阜、愛知合同で行っているが三重県も一緒にできないかの依頼があり、執行予算の高額化が各県共同問題で、これは静岡県も同

名古屋駅前の山用品専門店

駅前アルスス

〒450-0002
名古屋市中村区名駅4-4-10
名古屋クロスコートタワー 1F
TEL 052-565-1417

CLIMBING PARK 東三河初のクライミング施設



http://climbing-park.com

☎0532-26-3737

住所: 愛知県豊橋市関屋町138番地



モンタニア

住所 愛知県豊橋市萱町5番地 ☎0532-55-0125 http://www.montania.jp

平成30年度全国山岳遭難対策協議会が、7月11日(水)文部科学省3階講堂で行われ、警察、消防、山岳、高体連、山岳ガイド、山小屋等の関係

II 全国山岳遭難対策協議会開催 II 救助活動の現状や事故対策

副会長 高橋 優

者300人が出席した。午前10時から開会され、挨拶と講演から始められた。最初に報告「多数遭難者が発生した山岳救助活動」を

様であり来年以降に向け前向きに検討することになった。また、来年岐阜県で実施される全日本登山大会については昨年度のこの会議で岐阜県に開催をお願いした事情もあり、愛知県としても協力もあしく、会員の皆さんも多数ご参加をお願いします。

愛知県からは年間行事の報告に加え、各県の行事参加を促し、各岳連の交流の機会を作っていきたい旨の報告を行った。今後の東海4県の協力度体制の強化意識を高めることができました。

常任理事会

▼9月18日(火) 名古屋大会議室
(出席者) 安藤会長、伊藤、高橋副会長、岩瀬副理事長、相山、木田、木田(陽)、栗木、高木、倉、多田、谷澤

- 星各常任理事、中平等顧問
- 審議・お知らせ事項
- 1. 登山勉強会(9/25豊橋9/26県スポ) 搬送法
- 2. 救助技術研修・講習会(9/29、30御在所) 木田
- 3. 第45回自然観察会(9/29) あいち海上の森 栗木
- 4. 第73回福井国体(10/5、7福井) 倉
- 5. 県民登山教室実践(10/13荒島岳) 岩瀬
- 6. 高体連・秋季登山講習会(10/20、21釈迦ヶ岳)
- 7. 全国登山技術研修会(10/27、28岡崎) 木田
- 8. 安全登山サテライトセミナー(11/3、4名古屋工業大学)
- 9. 高体連・新人大会(11/10、11釈迦ヶ岳)
- 10. 第22回「遭難を考える」講演会(11/30県スポ) 御嶽山噴火・生還者の証言
- 11. 岳連親睦スキー大会(開催の有無について)
- 12. その他

印象に残った私の登山

19

白馬岳から蓮華温泉

安城こもれび会
山下 照司

私の印象に残る山行といえは、今から4年前の猿倉から白馬大雪渓を登り、頂上宿舎で宿泊。翌日は清水岳、不帰岳避難小屋、百貫の大下りを経て祖母谷温泉に入る計画でした。会に入って2年目の山行で参加者は男性4人、女性4人のメンバーで、猿倉から白馬大雪渓を登り、葱平で女性1名が足をすりべースダウン。芍薬甘草湯を飲ませて30分程休憩したらゆっくり歩けるようになり、なんとか全員今宵の宿の村営頂上宿舎に着きました。その後、私ら元氣者4人が白馬岳に登頂しました。

翌朝、雨が降っていないもののガスで真っ白でした。だが昨日白馬山頂に行っていない者を含め全員で登りました。再び頂上宿舎に戻り準備をしていたら大雨になり、祖母谷温泉は時間がかかるので行くのを諦め、白馬鑓温泉小屋で泊まり、猿倉に下りる計画に変更して出発しました。しかし尾根に出ると風速15mぐらいの風が吹いており、歩くことが困難で危険なため、再び頂上宿舎に戻りました。ここ泊まり明日猿倉に下りようアドバイスを受けました。どうせもう一泊するならば白馬山荘に泊まろうと山荘に向かいました。山荘で昼食を取っていたら青空が見えてきました。雨も上がり風は強いもののなんとか歩けそうなので、みんなと話し合い三國峠、小蓮華岳を経て、今夜の宿は白馬大池山荘にしようと思いき出し、高山植物を楽しみながら白馬大池山荘に着きました。宿泊の確認したら満員で泊まれないといわれ、また2時間半歩き蓮華温泉ロッジに着きました。何より先に玄関に冷やしてあったビールを飲み、温泉に入って広い部屋で寝ることができました。

三日目はバスで大糸線平岩駅まで行き、JRを乗り継いで一日かけて帰りました。従来の計画と大きく変わった山行でしたが、とても充実した山行でした。

この山行が成功したのも、山友の協力と頑張りがあったおかげです。ほんとに感謝の言葉しか浮かびません。

これからも、みんなと一緒に山登りを楽しみたいと思います。



Renopoint
http://www.renopoint.jp
Original Wear & Goods
オリジナルウェア・CMウェア (広告掲載)
カジュアルユニフォーム&グッズ
デザイン・企画・制作
お気軽にお問合せ下さい。
特許出願 GLASS PERCH(グラスパ・チ)
株式会社リノポイント 〒491-0835 愛知県一宮市あずら1-5-7
TEL:0586-58-5021 FAX:0586-58-5022 E-mail: ito@renopoint.jp

うなぎ錦三丁目 い ぼ しょう

いぼしょう

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号
TEL <052> 951-1166 番
営業時間 午前 11:00~午後 2:30
午後 4:00~午後 8:00
定休日 日曜日・第二・第三月曜日

奥多摩消防署長・室井修氏からあり、続いて報告Ⅱ「平成29年における山岳遭難の概要」を警察庁生活安全局地域課長補佐・脇山義人氏からあり次に「ココヘリ概要と遭難者発見実例」と題し、A U T H E N T I C J A P A N 代表久我一総氏が講演した。

この後、昼休憩に入り13時15分からは、実現可能な遭難対策「ワークシヨップ形式による検討」を村越真氏の司会進行で行われた。

次に講義「登山界の現状と遭難事故」を静岡大学教授・村越真氏が①山岳遭難の周辺(活動の多様化・救助隊のリスク・外国人登山環境・異文化)②遭難の現状(疫学的方法・ヒヤリハット分析・リスク特定能力の研究)③遭難要因とその対応について解説された。

小休憩の後「遭難対策好事例」を警察関係者2名、消防関係者2名から発表があり、また「北海道警察山岳遭難救助隊の取り組みについて」北海道警察本部・西村和隆氏から講演があった。

全般に活発な質疑応答が交わされ、最後に「山岳遭難事故防止のために」を採択して17時閉会した。

◆概要

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
											構成比
発生件数(件)	1,631	1,676	1,942	1,830	1,988	2,172	2,293	2,508	2,495	2,583	
遭難者数(人)	1,933	2,085	2,396	2,204	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%
死者・行方不明者	281	317	294	275	284	320	311	335	319	354	11.4%
死者	253	269	262	244	249	278	272	298	278	315	10.1%
行方不明者	28	48	32	31	35	42	39	37	41	39	1.3%
負傷者	698	670	832	819	927	1,003	1,041	1,151	1,133	1,208	38.8%
無事救出者	954	1,098	1,270	1,110	1,254	1,390	1,442	1,557	1,477	1,549	49.8%

◆態様別山岳遭難者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道迷い	1,134	1,163	1,202	1,116	1,252	40.2%
滑落	460	501	501	498	524	16.8%
転倒	393	401	467	471	469	15.1%
病気	221	187	232	229	232	7.5%
疲労	137	162	172	204	175	5.6%
その他	368	380	469	411	459	14.8%
転落	73	90	107	108	100	3.2%
悪天候	64	42	70	18	18	0.6%
野生動物襲撃	42	48	43	42	63	2.0%
落石	17	16	25	16	13	0.4%
雪崩	20	9	17	8	65	2.1%
落雷	3		1			
鉄砲水	7	2		2		
有毒ガス	1					
その他	83	108	128	146	116	3.7%
不明	58	65	78	71	84	2.7%
合計	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%

◆都道府県別山岳遭難発生状況

都道府県	発生件数		遭難者数(人)				都道府県	発生件数		遭難者数(人)			
			死者	行方不明者	負傷者	無事救出				死者	行方不明者	負傷者	無事救出
長野県	292	327	60	3	148	116	滋賀県	76	108	4	1	36	67
北海道	236	276	25	3	76	172	岐阜県	78	87	7	0	43	37
東京都	155	187	12	0	70	105	三重県	57	76	3	0	19	54
富山県	131	144	16	2	70	56	愛知県	23	28	1	0	12	15

◆目的別山岳遭難者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	1,947	2,151	2,283	2,101	2,223	71.5%
登山	1,645	1,828	2,048	1,867	1,957	62.9%
ハイキング	150	188	106	110	136	4.4%
スキー登山	61	58	57	32	65	2.1%
沢登り	48	43	39	48	36	1.2%
岩登り	43	34	33	44	29	0.9%
山菜・茸採り	360	328	391	386	380	12.2%
その他	406	315	369	442	508	16.3%
観光	130	99	105	143	116	3.7%
作業	59	43	40	40	45	1.4%
溪流釣り	32	31	26	32	43	1.4%
写真撮影	20	20	21	21	21	0.7%
自然観賞	3	14	11	14	18	0.6%
山岳信仰	10	10	8	9	15	0.5%
狩猟	6	3	4	8	9	0.3%
スキー	146	87	57	72	77	2.5%
その他			85	92	147	4.7%
不明		8	12	11	17	0.5%
合計	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%

◆年令層別山岳遭難者

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	230	153	201	174	189	6.1%
20～29	236	222	228	194	261	8.4%
30～39	251	281	277	291	240	7.7%
40～49	332	333	372	366	378	12.2%
50～59	406	402	397	421	455	14.6%
60～69	686	744	791	746	741	23.8%
70～79	466	537	609	565	669	21.5%
80～89	97	114	151	161	165	5.3%
90歳以上	9	6	14	10	13	0.4%
不明		2	3	1		
合計	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	100.0%

◆単独登山者の遭難状況

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭難者	852	941	1,068	988	1,069	100.0%
死者・行方不明者	164	190	185	184	210	19.6%
死者	131	160	160	150	179	16.7%
行方不明者	33	30	25	34	31	2.9%
負傷者	284	291	350	327	347	32.5%
無事救出者	404	460	533	477	512	47.9%
全遭難者に占める単独登山中の遭難者の割合	31.4%	33.7%	35.1%	33.7%	34.4%	

「JACC東海支部インドヒマラヤ登山隊」 タシ・ラン峰(6060m)初登頂!

第13次インドヒマラヤ登山隊2018は、インドヒマラヤ・スピテイー地区のカルチャ・ナラ流域にある6060m未踏峰に8月18日午後2時8分全員登頂を果たし、タシ・ラン峰(幸せの山の意)と命名した。1988年の第1次・ヤン峰以来17座目の登頂となる。

今回の遠征は、①遠征隊を継続して出すこと②隊員の若返りを図ること③10次隊から継続してカルチャ・ナラ流域での探検的登山を行うこと、が主たる狙いである。

〔隊の構成〕
 総隊長…高橋玲司支部長
 隊長…星 一男(67)
 登攀隊長…塚原 孝司(64)
 隊 員…木股 修一(66)
 須田 克正(63)
 長谷川妙子(50)

〔登頂記録〕
 8月18日AC(5500m)を午前3時起床、外はガスに包まれていたが、アタック日と決めていたので、迷いなく朝食を済ませ登攀準備。

出発予定の午前5時、全く視界が効かない。少し明るくなるのを待つとガスの中に視界が開け、同5時38分AC出発。隊列になりA氷河を登高。アイゼンがよく効いた。前日、

偵察試登済みの右正面からのダイレクトルートを提案したが、現地ハイポーターからクレバスが多く危険という理由で拒否され断念。事故を起こしては、元も子もない、「安全第一」である。大きく山裾を迂回し、午前6時45分取付き。クレバスと滑落防止対策として、全員コンテニユアス

を結ぶ。雪面は、軟雪であるが下の氷は硬く簡単にピッケルは刺さらない。「一人滑落したら全員が滑落停止の姿勢を取れ」とハイポーターは言うが、容易な事とは思えない。なにより、落ちないことだ。

午前7時37分下部雪壁上の岩稜に出たところで、最初の核心部、FIXロープを伸ばしユマールで登攀。「上部岩稜からの落石に気を付けて」と後続隊員に叫ぶのがやつとで、一人一人が抜けるまで待つ余裕がなかった。ここを抜けると、眺めの素晴らしい雪稜に出た。続けて、FIXロープを伸ばし、順調に雪稜を登攀した。ペツルのスタクリューが面白いように効いた。午前10時40分先頭のハイポーターが突然、「左の雪庇を割りアップザイレインして左下の岩稜に出たい」と言う。なるほどと思える、豊幅くらい

の岩稜が上に向かって伸びている。岩稜は、雪壁とのミックス帯で、上部ほど岩稜の幅が狭くなり雪壁のみになっている。

午前10時59分、なだらかな岩稜をフリーで100m進み、以後斜度のある岩稜と雪壁のミックス帯を、FIXロープを伸ばしながら登攀。

午後1時03分頂上事前の小ピークを廻り込み通過。更にミックス帯を登ること40分、ふと見上げた瞬間頂上が見え、主稜へつながる美しい雪面の最終FIXを登攀。そして、頂上まで100mの雪稜をフリーで一步一歩登り、頂上に立つことができた。最終ピッチあたりから、若い頃からのヒマラヤへの憧れとかつての厳しい冬期登山行の数々が思い起こされ、なぜか涙が流れ出し、ついに頂上では大泣きになってしま、皆で抱き合って喜んだ。

午後2時38分下山開始。登頂ルートと同ルートを下山。FIXロープをフル活用しての下降で、斜度のある箇所はアップザイレインとなり、必然的に所要の時間がかかった。核心部を下りきったところで、ヘッドランプを要するほどの暗さとなり、ヘッドランプを頼りに下部の雪稜を、FIXとコンテニユアスでACまで下る。午後8時55分AC到着。(T)

月日	内容
11. 6	常任理事会 (OMCビル)
11.10~11	高体連新人大会 (鈴鹿・釈迦ヶ岳)
11.30	第22回「遭難を考える」講演会 (県スポーツ会館)
12. 4	常任理事会 (OMCビル)
12.18	冬山遭難対策会議 (県スポーツ会館)
1. 6	常任理事会 (OMCビル)
1. 8	指導員集会 (豊橋)
1.13	総合登山技術検定 (南山)
1.15	高体連登山部委員会 (県教育会館)
1.22	第4回理事会 (県スポーツ会館)
1.29	指導員集会 (県スポーツ会館)

観光庁長官登録旅行業第490号/社)日本旅行業協会正会員

ALPINE ツア サービス

海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社
 まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい
 個人&グループでのご利用お待ち申し上げます

名古屋営業所 TEL: 052-581-3211
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 第3千禧ビル3階
 FAX: 052-561-8338 E-mail: nagoya@alpine-tour.com
 ホームページ <http://www.alpine-tour.com>

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
 (地下鉄・久屋大通駅から徒歩2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130
 URL: <http://www.nygs-office.com/>

ビギナーから安心して選べる三河地区
 エキスパートまで
 のプロショップ

JR刈谷駅前

穂高

〒448 刈谷市桜町1-13
 TEL: 0566(23)8611
 定休日/火曜日
 営業時間/10:00~20:00

登山用品豊富!

